

高齢者実態調査報告書

《本人調査・ひとり暮らし調査》

平成29年3月

大阪市

- 目 次 -

1	調査概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査設計(本人調査・ひとり暮らし調査)	1
	(3) 調査項目	1
	(4) 回収状況	2
	(5) 報告書の見方	2
2	本人調査結果	3
	(1) 調査回答者の基本属性	3
	問1 調査票記入者	3
	問2 (1) 性別	4
	問2 (2) 年齢	6
	問2 (3) 居住区	8
	問2 (4) 居住区の在住年数	10
	(2) 世帯・住まいの状況	11
	問3 世帯の状況(同居家族)	11
	問3-1 昼間独居の状況	13
	(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	14
	問4 介護保険の申請・認定の状況	14
	問4-1 申請をしていない理由	16
	問5 日常生活動作・日常的な活動の状況	18
	問6 外出の頻度	20
	問6-1 外出しない(少ない)理由	22
	問7 外出するときの目的	23
	問8 介護予防のための取組み	26
	問9 かかりつけの医師の有無	31
	問9-1 通院出来なくなった場合の医師による訪問診療	33
	問10 かかりつけの歯科医師の有無	34
	問10-1 通院出来なくなった場合の歯科医師による訪問歯科診療	36
	問11 歯の本数	37
	問12 かねて食えるときの状態	38
	問13 医療の相談先	39
	問14 在宅で提供される医療	40
	問15 終末期に過ごしたい場所	42
	問16 終末期についての話し合いの有無	47
	問17 日常生活全般に対する不安	52
	問17-1 不安に感じることの内容	55
	(4) 就労・地域生活の状況・意向、いきがいの状況	58
	問18 就労の状況	58

問19	今後仕事をしたいか(続けたいか)の意向	59
問19-1	仕事をしたい(続けたい)理由	60
問20	近所付き合いの程度	61
問20-1	近所付き合いがほとんどない理由	63
問21	継続的に参加している団体や集まり	64
問21-1	参加のきっかけ	67
問21-2	参加していない理由	68
問22	地域社会に貢献できると考える活動	69
問23	近隣への支援と近隣からの支援	71
問24	楽しみや生きがい	74
(5)	将来の介護や援護に対する考え	76
問25	特別養護老人ホームの整備に対する考え	76
問26	特別養護老人ホームの入所に関する意向	78
問27	住まいへの希望	79
問28	介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方	81
問29	在宅生活継続のために必要な支援	85
(6)	現在の暮らしに対する考え	88
問30	生活の満足度	88
(7)	地域生活支援	91
問31	地域包括支援センター等の利用・認知状況	91
問31-1	地域包括支援センター等を知ったきっかけ	94
問31-2	地域包括支援センター等を利用された目的	95
問31-3	地域包括支援センター等を利用した際の満足度	96
問32	高齢者虐待の通報先・相談先の認知度	97
問33	認知症という病気の認知度	100
問34	認知症を不安に感じるときの相談先	101
問35	認知症の人の支援に必要と考えること	103
問36	孤立死について考えること	105
問36-1	孤立死を身近に感じる理由	107
問37	地域での見守り活動の認知度と必要性	108
問38	災害時・緊急時にひとりで避難が可能か	115
問38-1	手助けを頼める人の有無	117
問39	災害時の心配事	118
問40	個人情報や地域団体等への提供についての考え	120
問41	困ったときの相談相手	122
(8)	高齢者施策全般	124
問42	高齢者向け施設や事業の利用状況・意向	124
問43	高齢者向け福祉サービス、制度の利用状況・意向	138
問44	高齢者向けサービスの情報の入手方法	149
問45	重点を置くべきと考える高齢者施策	151
問45	特に重点を置くべきと考える高齢者施策	157
(9)	高齢者施策に関する意見・要望など(自由記述)	158

3	ひとり暮らし調査結果	160
(1)	ひとり暮らし調査	160
問1	ひとり暮らしの期間	160
問2	健康状態	160
問3	日頃行き来したりする方	162
問4	もっともよく行き来している方	163
問5	もっともよく行き来したりする方の家の場所	164
問6	もっとも親しくしている方との行き来の頻度	164
問7	誰とも話をしない日は週に何日か	166
問8	病気等の緊急時にすぐに来てくれる人の有無	168
問8-1	すぐに来てくれる方との関係	168
問9	直近1年間で、3日以上介護が必要になったことがあるか	169
問9-1	介護を要した際、どこで療養したか	169
	調査内容についてのご意見や、その他お困りごと	170
(2)	本人調査における「ひとり暮らし世帯」回答結果(世帯比較)	172
問1	調査票記入者	172
問2	(1)性別	172
問2	(2)年齢	172
問2	(3)居住区	173
問2	(4)居住区の在住年数	174
問4	介護保険の申請・認定の状況	175
問4-1	申請をしていない理由	176
問5	日常生活動作・日常的な活動の状況	176
問6	外出の頻度	177
問6-1	外出しない(少ない)理由	177
問7	外出するときの目的	178
問8	介護予防のための取組み	179
問9	かかりつけの医師の有無	180
問9-1	通院出来なくなった場合の医師による訪問診療	180
問10	かかりつけの歯科医師の有無	181
問10-1	通院出来なくなった場合の歯科医師による訪問歯科診療	181
問11	歯の本数	182
問12	かんで食べる時の状態	182
問13	医療の相談先	183
問14	在宅で提供される医療	184
問15	終末期に過ごしたい場所	185
問16	終末期についての話し合いの有無	185
問17	日常生活全般に対する不安	186
問17-1	不安に感じることの内容	186
問18	就労の状況	187
問19	今後仕事をしたいか(続けたいか)の意向	187
問19-1	仕事をしたい(続けたい)理由	188

問20	近所付き合いの程度	189
問20-1	近所付き合いがほとんどない理由	189
問21	継続的に参加している団体や集まり	190
問21-1	参加のきっかけ	191
問21-2	参加していない理由	192
問22	地域社会に貢献できると考える活動	193
問23	近隣への支援と近隣からの支援	194
問24	楽しみや生きがい	195
問25	特別養護老人ホームの整備に対する考え	196
問26	特別養護老人ホームの入所に関する意向	196
問27	住まいへの希望	197
問28	介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方	197
問29	在宅生活継続のために必要な支援	198
問30	生活の満足度	199
問31	地域包括支援センター等の利用・認知状況	200
問31-1	地域包括支援センター等を知ったきっかけ	200
問31-2	地域包括支援センター等を利用された目的	201
問31-3	地域包括支援センター等を利用した際の満足度	202
問32	高齢者虐待の通報先・相談先の認知度	203
問33	認知症という病気の認知度	203
問34	認知症を不安に感じるときの相談先	204
問35	認知症の人の支援に必要と考えること	205
問36	孤立死について考えること	206
問36-1	孤立死を身近に感じる理由	206
問37	地域での見守り活動の認知度と必要性	207
問38、問38-1	災害時・緊急時にひとりで避難が可能か・手助けを頼める人の有無	208
問39	災害時の心配事	209
問40	個人情報や地域団体等への提供についての考え	210
問41	困ったときの相談相手	211
問42	高齢者向け施設や事業の利用状況・意向	212
問43	高齢者向け福祉サービス、制度の利用状況・意向	214
問44	高齢者向けサービスの情報の入手方法	215
問45	重点を置くべきと考える高齢者施策	216
問45	特に重点を置くべきと考える高齢者施策	217

1 調査概要

(1) 調査目的

〔1〕本人調査

大阪市内に居住する65歳以上の高齢者を対象に、世帯の状況、日常生活の状況、就労・いきがいの状況、地域活動・社会参加の状況、将来の介護に対する考え、地域生活の状況、高齢者向けサービスの利用状況と利用意向などを把握し、大阪市内における今後の高齢者施策及び介護保険事業制度の運営に資する基礎資料を得ることを目的に実施した。

〔2〕ひとり暮らし調査

大阪市内に居住する65歳以上のひとり暮らし世帯の高齢者を対象に、健康状態、日常的なつながり、緊急時の支援者の状況等を把握し、大阪市内における今後の高齢者施策及び介護保険事業制度の運営に資する基礎資料を得ることを目的に実施した。

(2) 調査設計（本人調査・ひとり暮らし調査）

調査地域：大阪市内全域

調査対象：大阪市内に居住する満65歳以上の高齢者から無作為に抽出した19,390人
（ひとり暮らし調査は19,390人のうち、ひとり暮らしの方が対象）

調査方法：郵送配布、郵送回収

調査期間：平成28年7月1日から平成28年8月26日

(3) 調査項目

〔1〕本人調査

調査回答者の基本属性

調査票記入者、性別、年齢、居住区、居住年数

世帯・住まいの状況

同居家族、昼間独居の状況

健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

介護保険の申請・認定の状況、日常生活動作・日常的な活動の状況、外出の頻度・目的、介護予防のための取組み、医師の状況、口腔状態、在宅医療、日常生活への不安
就労・地域生活の状況・意向、いきがいの状況

就労に関すること、地域・近隣との関わり、楽しみ・生きがい

将来の介護や援護に対する考え

特別養護老人ホームの整備に対する考え・入所の意向、住まいへの希望、今後の暮らし方、在宅生活継続のために必要な支援

現在の暮らしに対する考え

生活の満足度

地域生活支援

地域包括支援センター等の利用状況等、高齢者虐待に関すること、認知症に関すること、孤立死に関すること、災害時支援に関すること、個人情報地域団体等への提供についての考え、困ったときの相談相手

高齢者施策全般

高齢者向け施設・事業の利用状況・意向、高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況・意向、情報の入手方法、重点を置くべき高齢者施策
高齢者施策に関する意見・要望等

〔 2 〕 ひとり暮らし調査

ひとり暮らしの期間

健康状態

日常的なつながり

よく行き来する人の有無、行き来の頻度、行き来のある方の家の場所

緊急時の支援者の有無

支援者の有無、支援者は誰か

介護が必要なときの療養について

介護が必要になったことの有無、どこで療養したか

（ 4 ） 回収状況

〔 1 〕 本人調査

調査対象者 (a)	回収数 (b)	集計対象外数 (c)	有効回答数 (d)=(b)-(c)	有効回答率 (e)=(d)/(a)
19,390	10,430	302	10,128	52.2%

集計対象外数の内訳（調査票の返送があったが、下記の理由により集計対象から外したもの）

病院に入 院中	特別養護老人 ホームや介護 老人保健施設 等の施設に入 所中	本人の意 思が確認 できない	転居	死亡	白票	その他	計
69	124	26	6	8	8	61	302

〔 2 〕 ひとり暮らし調査

本人調査有効 回答数 (a)	ひとり暮らし 有効回答数 (b)
10,128	3,096

（ 5 ） 報告書の見方

回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0％にならない場合がある。）

図表上の「MA％」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA％」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。

コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。

報告書記載の「前回調査」とは、平成25年10月実施の高齢者実態調査の結果を示している。

本人調査 編

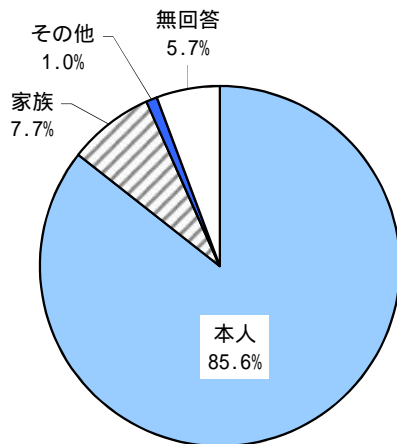
2 本人調査結果

(1) 調査回答者の基本属性

問1 調査票記入者

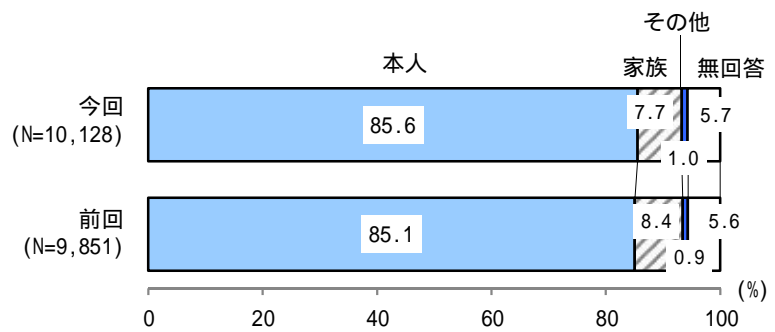
この調査票をご記入されるのはどなたですか。(はひとつ)

【図1 調査票記入者】



(N=10,128)

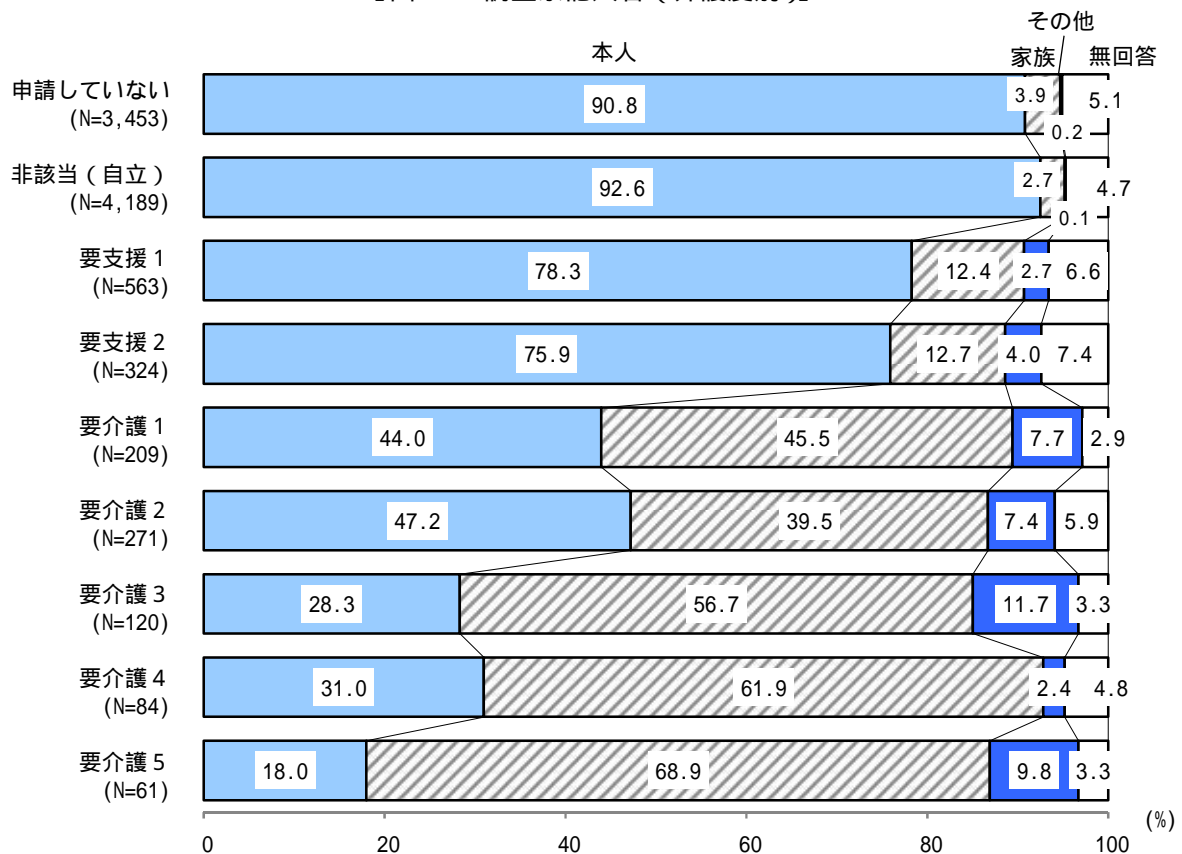
【図1-1 調査票記入者(比較)】



調査票の記入者は、「本人」が85.6%、「家族」が7.7%となっている。(図1) 前回調査と同じく、8割以上の方は、ご本人が調査に協力いただいている。(図1-1)

介護度別でみると、介護度が上がるほど「本人」が記入の割合は下がっており、要介護3以上では、5割以上の方が「家族」等の協力による回答となっている。(図1-a)

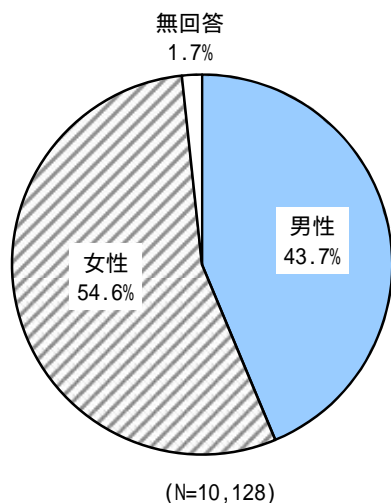
【図1-a 調査票記入者(介護度別)】



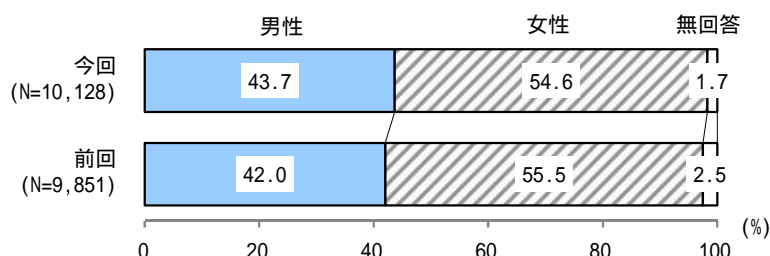
問2 (1) 性別

あなた(あて名ご本人：以降の質問も同じ)の性別、年齢などについておうかがいします。
あなたの性別をお答えください。(はひとつ)

【図2(1) 調査回答者の性別】



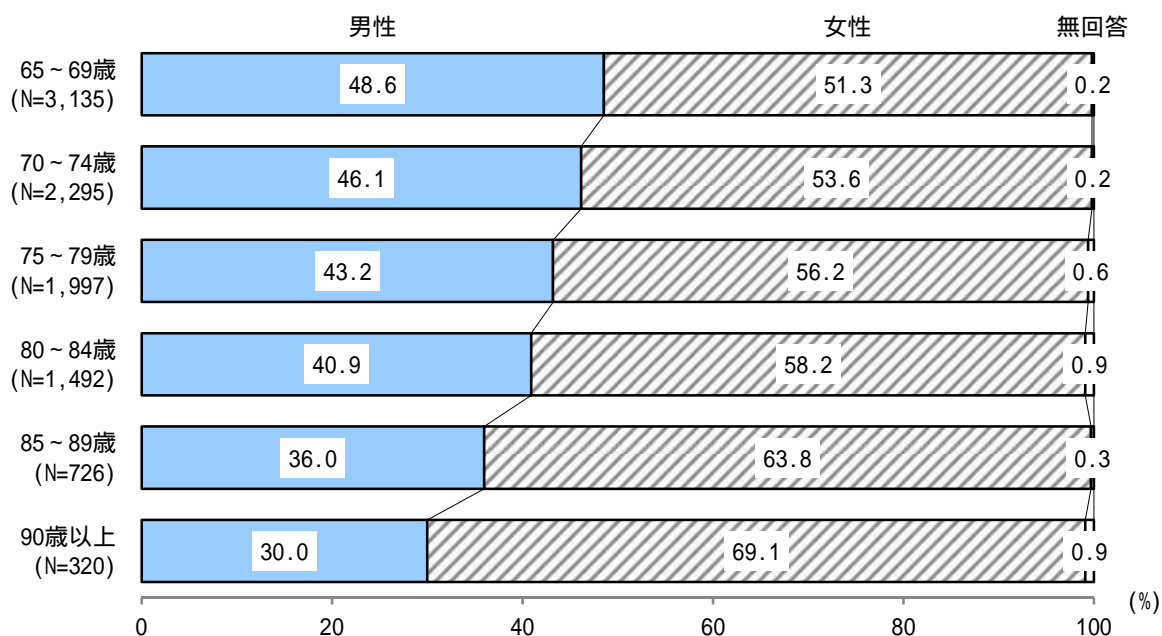
【図2(1)-1 調査回答者の性別(比較)】



調査回答者の性別は、「男性」より「女性」の割合が高くなっている。(図2(1)) 回答者の性別の割合は、概ね前回調査と同様となっている。(図2(1)-1)

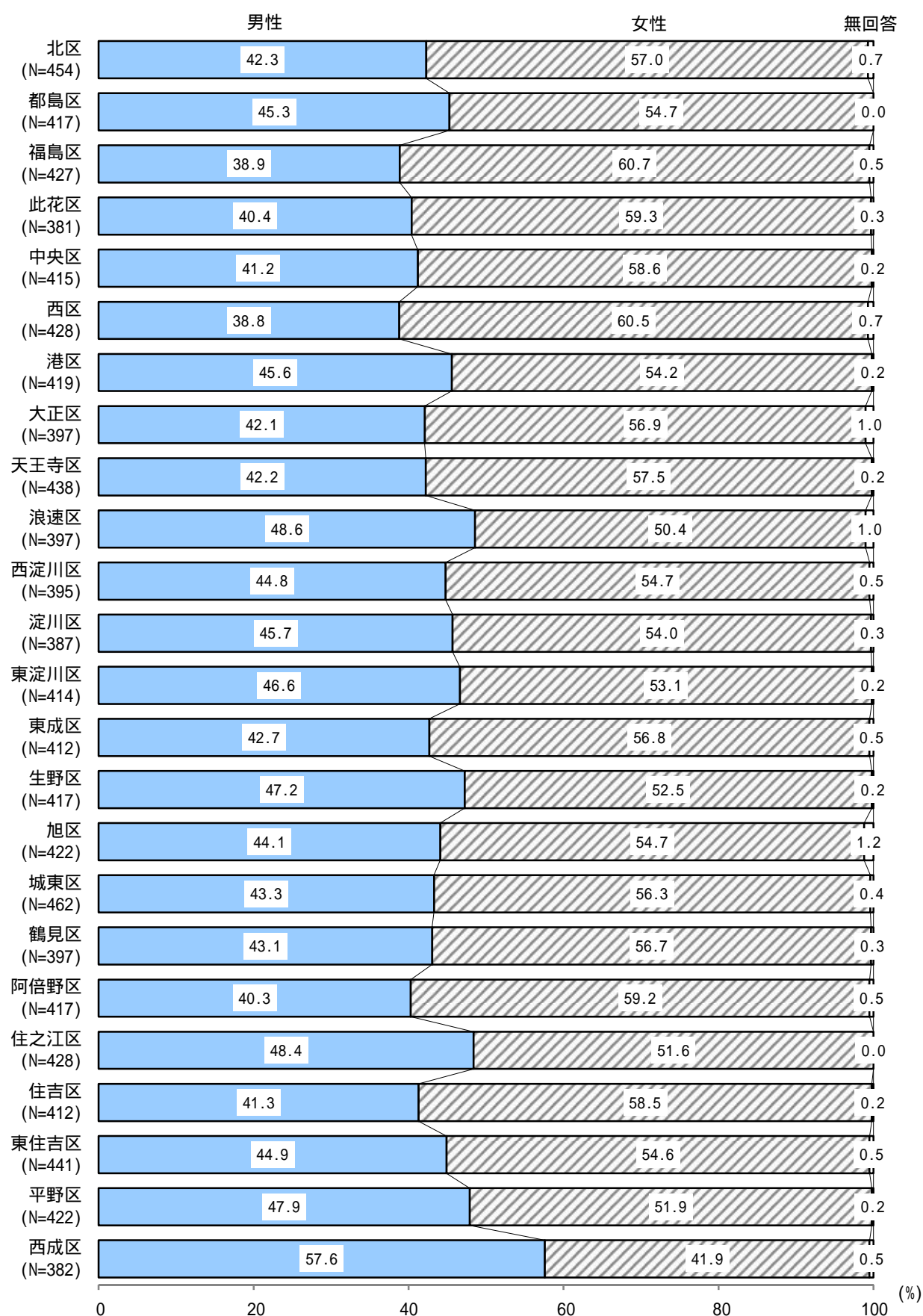
調査回答者の性別を年齢別にみると、高齢になるほど、男性の割合が下がっている。(図2(1)-a)

【図2(1)-a 調査回答者の性別(年齢別)】



調査回答者の性別について居住区別でみると、概ね男性が4割前後、女性が6割弱となっている。西成区については、他の区と比べて、男性の回答割合が高くなっている。(図2(1)-b)

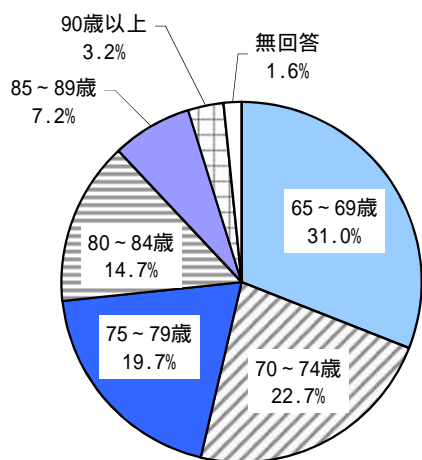
【図2(1)-b 調査回答者の性別(居住区別)】



問2 (2) 年齢

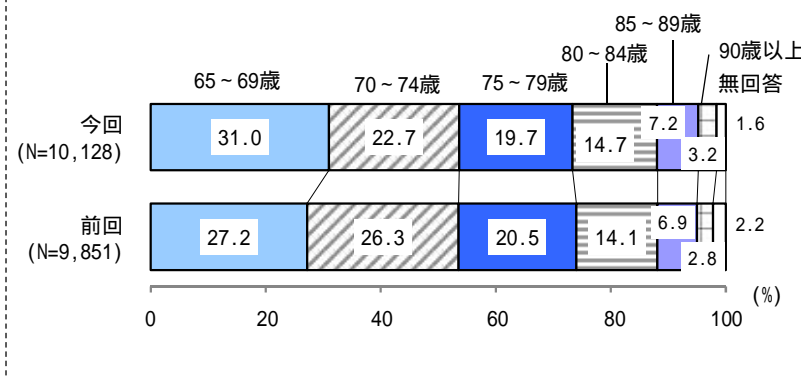
あなたの年齢をお答えください。(はひとつ)

【図2(2) 調査回答者の年齢】



(N=10,128)

【図2(2)-1 調査回答者の年齢(比較)】

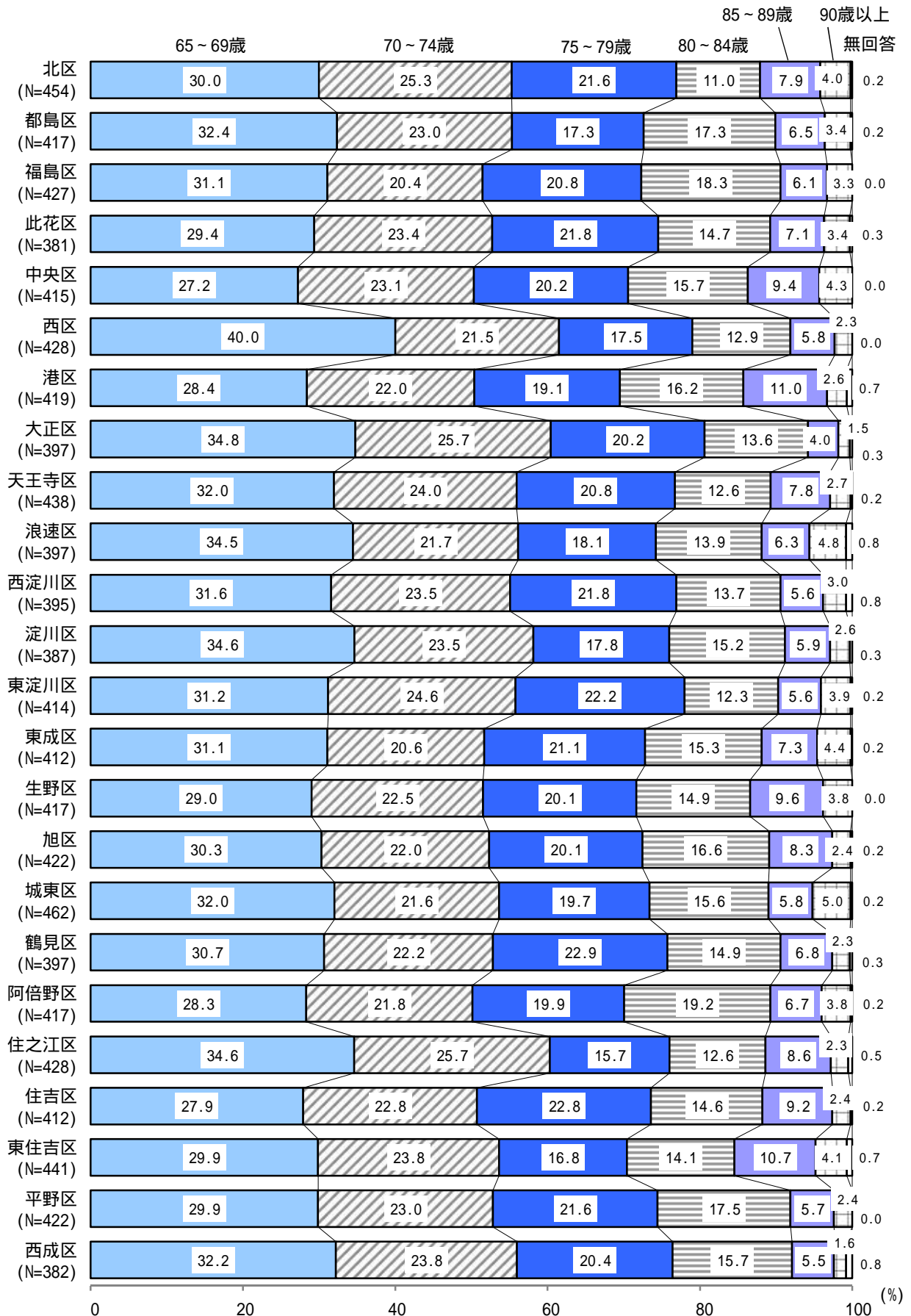


調査回答者の年齢は、前期高齢者(65歳~74歳)(53.7%)の回答が5割を超えており、後期高齢者(75歳以上)の回答は44.8%となっている。(図2(2))

前回調査と比較すると、「65~69歳」の割合がやや増え、「70~74歳」の割合がやや減っているが、全体的には、概ね前回と同様の構成割合となっている。(図2(2)-1)

調査回答者の年齢について区別にみると、「65～69歳」は西区が40.0%で最も高く、西区、大正区、住之江区では前期高齢者が6割を超えている。(図2(2)-a)

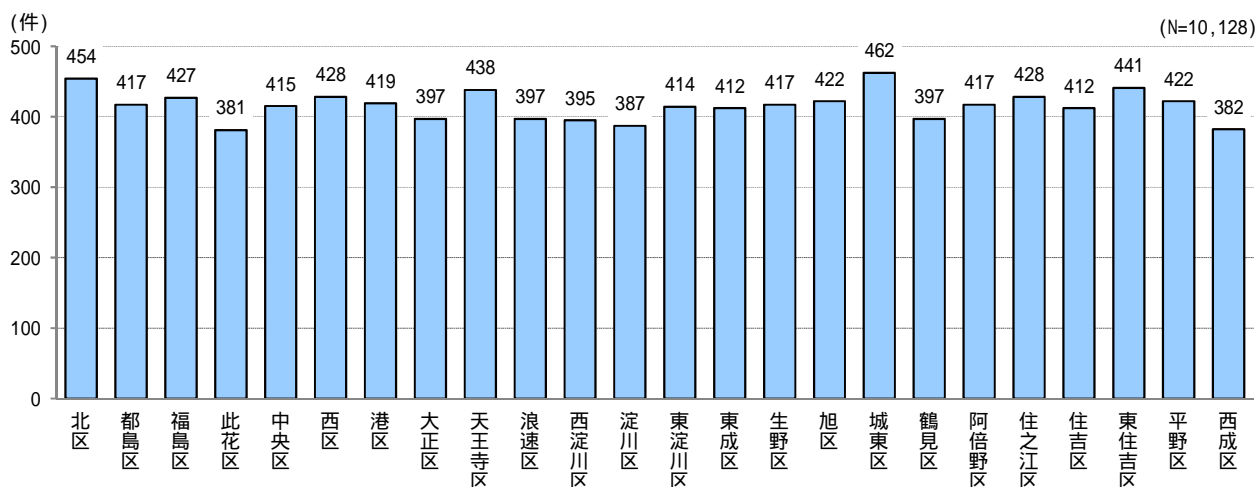
【図2(2)-a 調査回答者の年齢(居住区別)】



問2 (3) 居住区

あなたのお住まいの区はどちらですか。(はひとつ)

【図2(3) 居住区】



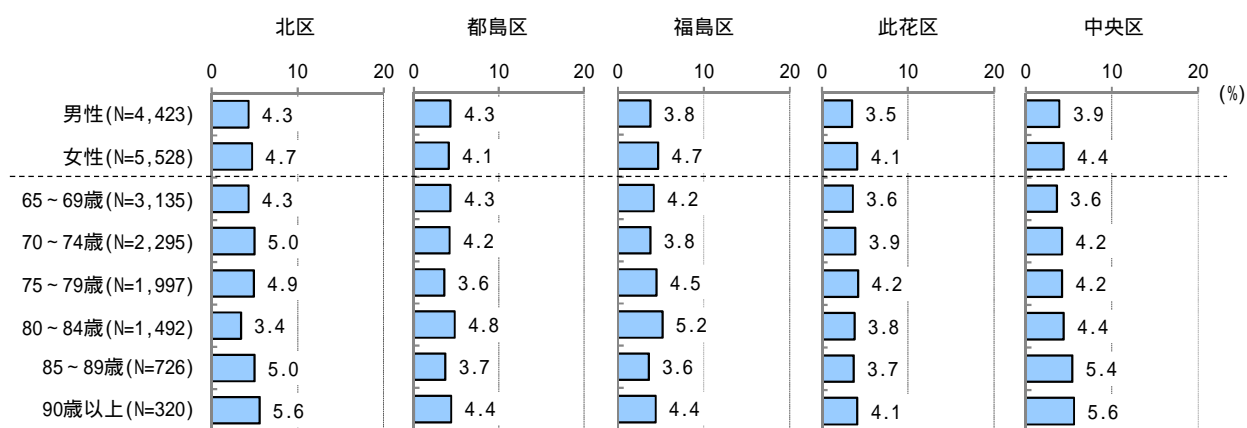
(無回答 = 147件)

調査回答者について、24区別に400件程度の回答を得ているが、「此花区」、「淀川区」、「西成区」からの回答はやや少なくなっている。(図2(3))

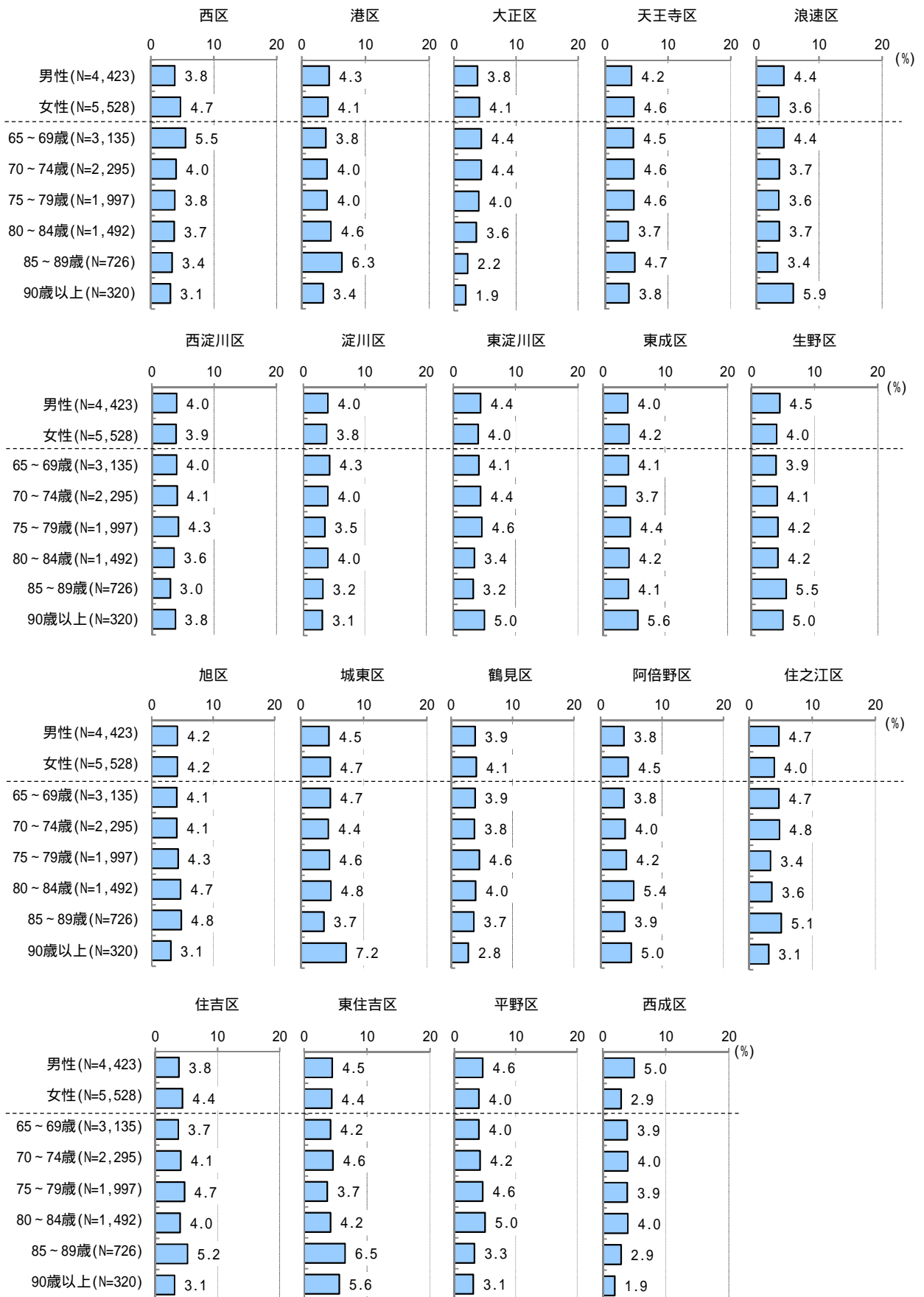
居住区を性別で見ると、男性では「西成区」が5.0%で最も多く、女性は「北区」「福島区」「西区」「城東区」がそれぞれ4.7%で最も多い。

年齢別で見ると、「中央区」は年齢が高いほど割合が高くなっているが、「大正区」では年齢が高いほど低い割合となっている。また、「城東区」では、90歳以上が突出している。(図2(3)-a)

【図2(3)-a 居住区(性別、年齢別)】



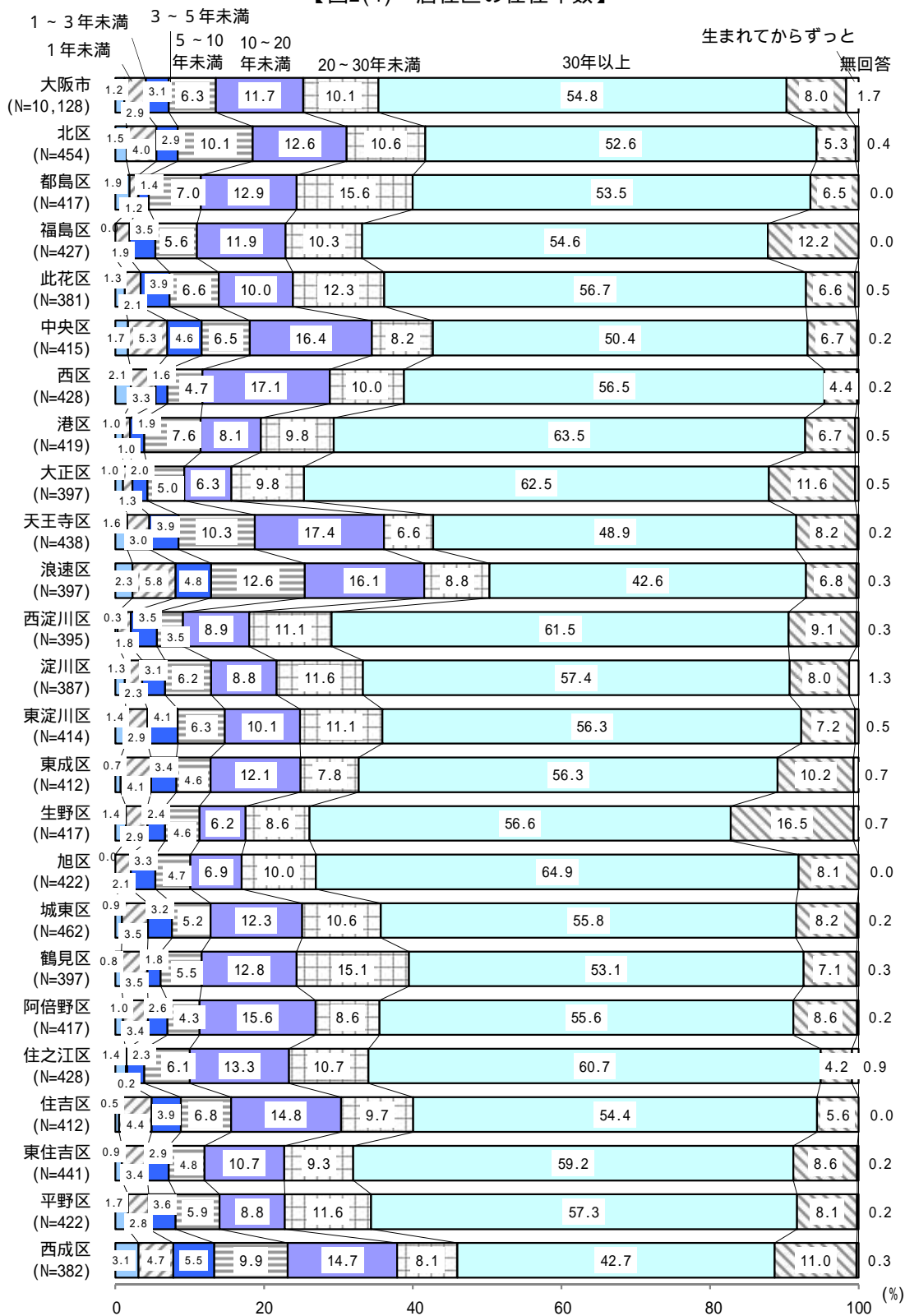
【图2(3)-a 居住区(性别、年龄别)】



問2 (4) 居住区の在住年数

あなたは、現在お住まいの区内に暮らし始めてどれくらい経ちますか。(はひとつ)

【図2(4) 居住区の在住年数】



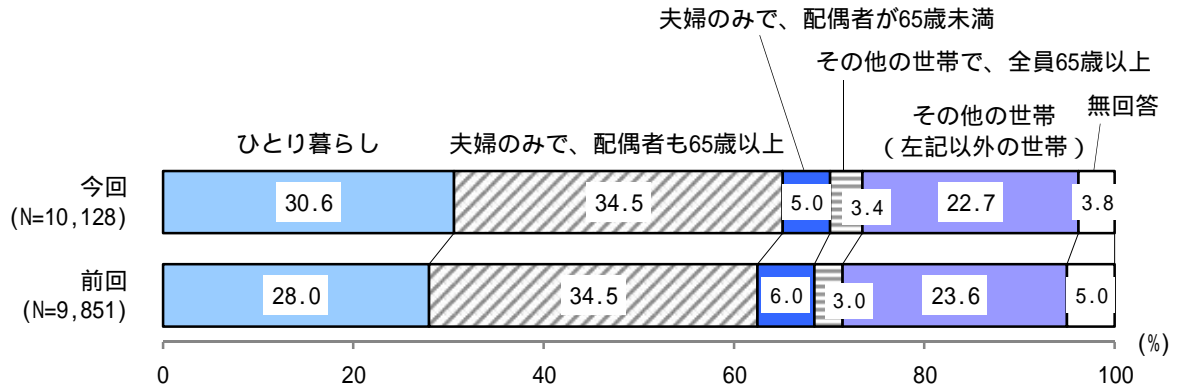
調査回答者の居住区における年数については、「生まれてからずっと」を含む30年以上の居住者が浪速区を除いた区で5割を超えている。(図2(4))

(2) 世帯・住まいの状況

問3 世帯の状況(同居家族)

あなたの世帯の状況についてお答えください。(はひとつ)

【図3 世帯の状況】



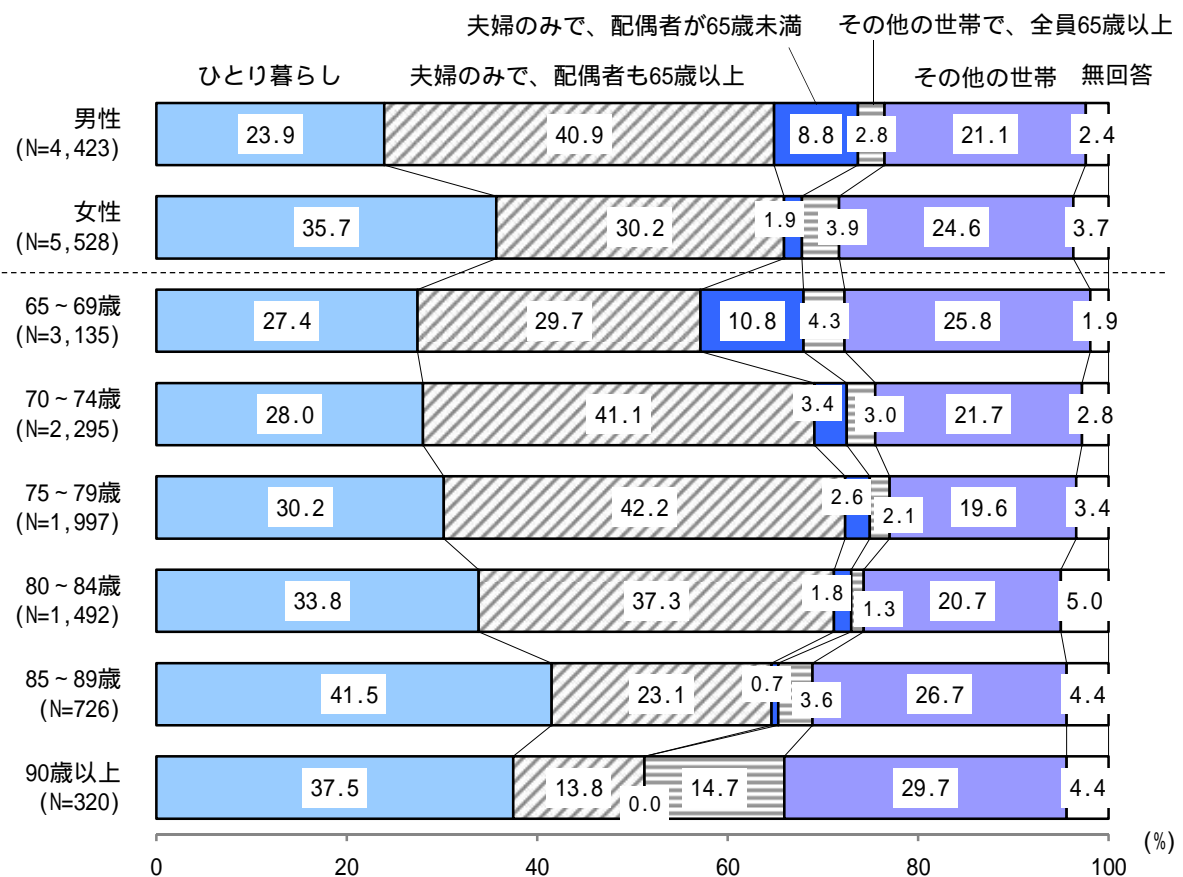
調査回答者の世帯状況については、「夫婦のみで、配偶者も65歳以上」の割合が34.5%で最も高くなっており、次いで「ひとり暮らし」が30.6%となっている。

前回調査と比較すると、「ひとり暮らし」と「その他の世帯で、全員65歳以上」の世帯の割合が増加しており、特に「ひとり暮らし」の割合は2.6ポイント高くなっている。(図3)

性別で見ると、「ひとり暮らし」は、男性に比べ女性の割合が高くなっている。

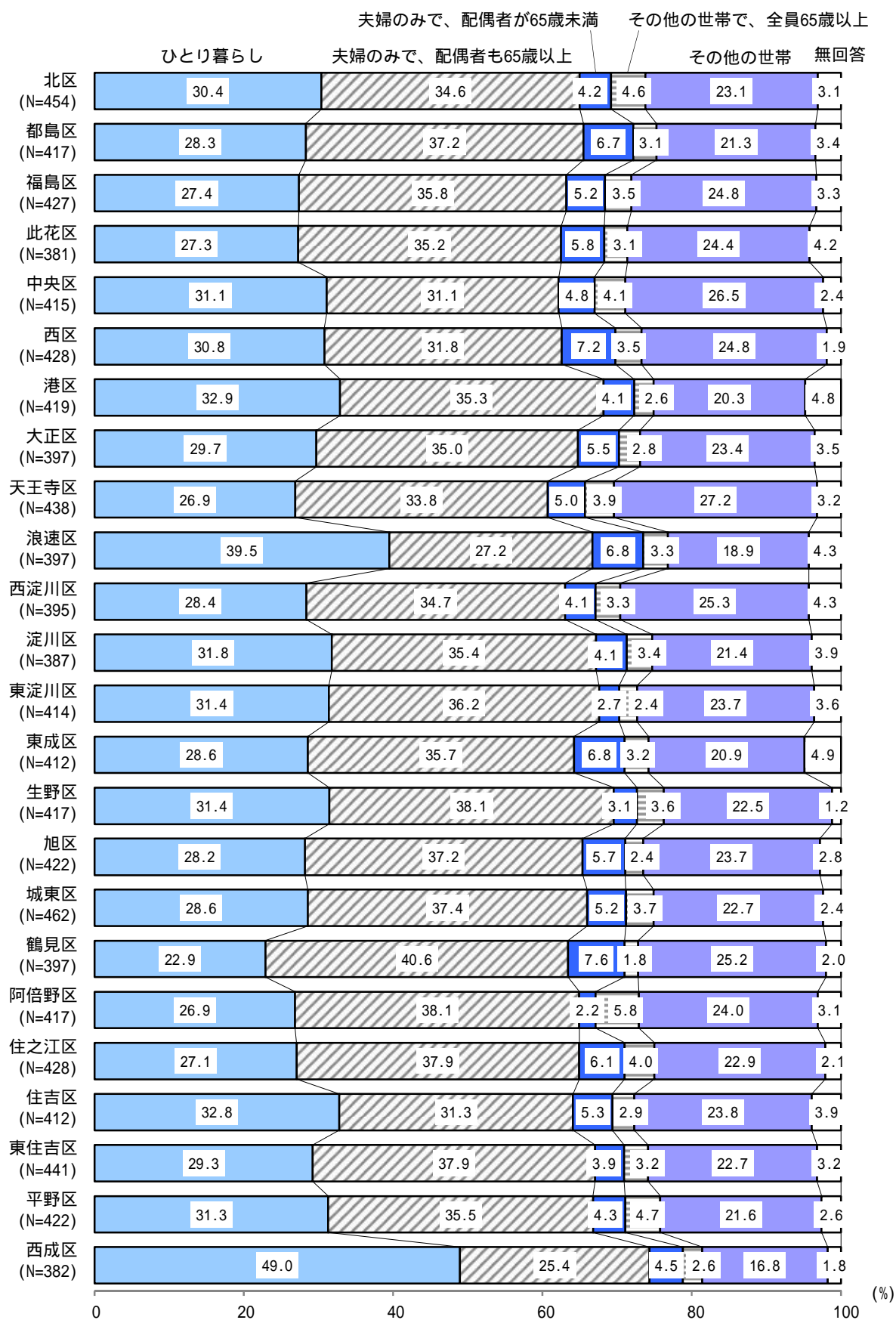
年齢別では、概ね高齢になるほど、「ひとり暮らし」の割合が増え、『夫婦のみ世帯』の割合が減少する。また、90歳以上では、「その他の世帯で、全員65歳以上」が他よりも高い。(図3-a)

【図3-a 世帯の状況(性別・年齢別)】



居住区別でみると、「ひとり暮らし」は西成区で最も高く、次いで浪速区となっている。「夫婦のみで、配偶者も65歳以上」は鶴見区で最も高くなっている。(図3-b)

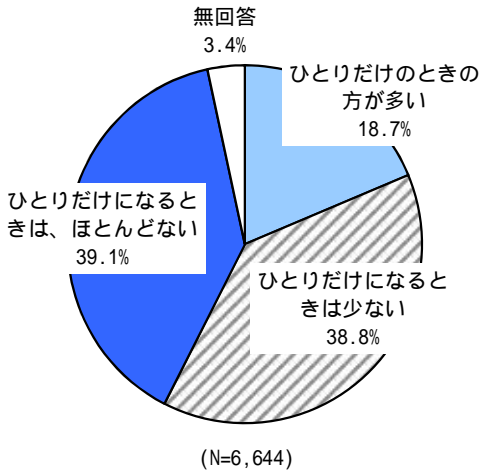
【図3-b 世帯の状況(居住区別)】



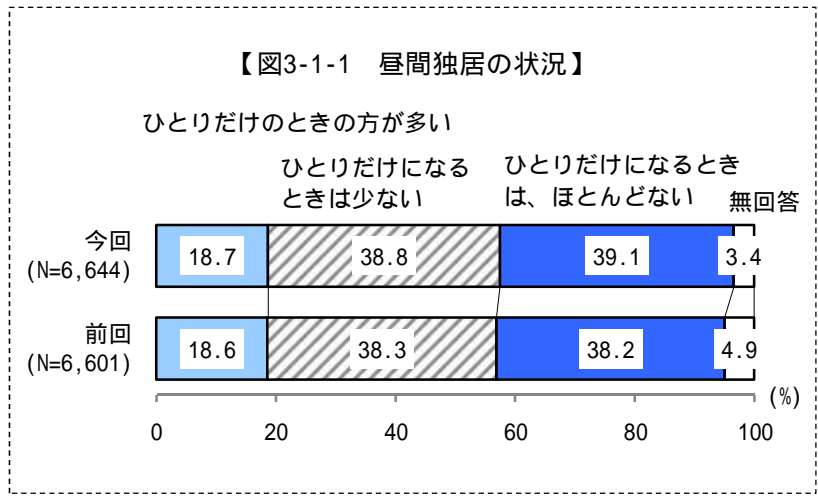
問3-1 昼間独居の状況

【問3で「2～5」と回答された方におうかがいします。
あなたの昼間の状況は、次のどれにあてはまりますか。(はひとつ)

【図3-1 昼間独居の状況】



【図3-1-1 昼間独居の状況】



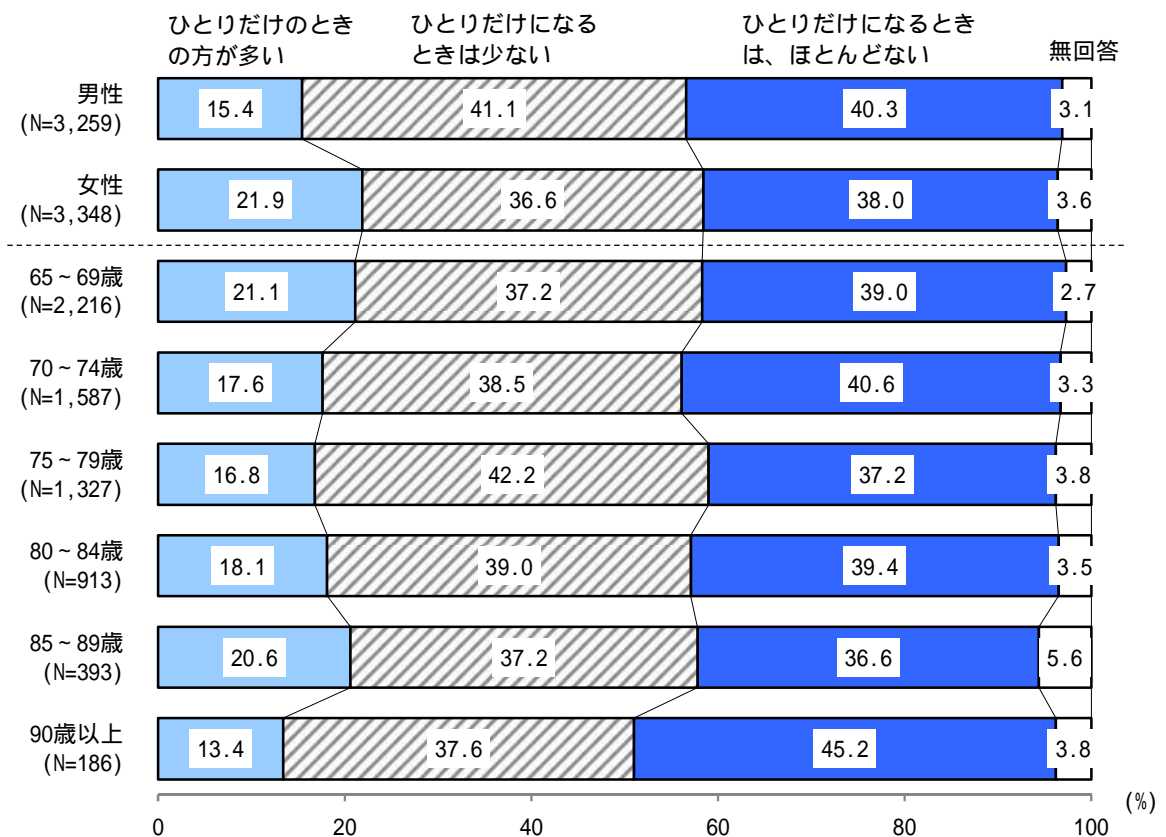
調査回答者の昼間の状況は、「ひとりだけになるときは、ほとんどない」、「ひとりだけになるときは少ない」をあわせると77.9%となっている。(図3-1)

前回調査と比較すると、全体的には、概ね前回と同様の構成割合となっている。(図3-1-1)

性別でみると、男性よりも女性の方が、「ひとりだけになることが多い」の回答割合が高くなっている。

年齢別では、90歳以上で「ひとりだけになることが多い」の回答割合が他よりも低くなっている。(図3-1-a)

【図3-1-a 昼間独居の状況(性別・年齢別)】

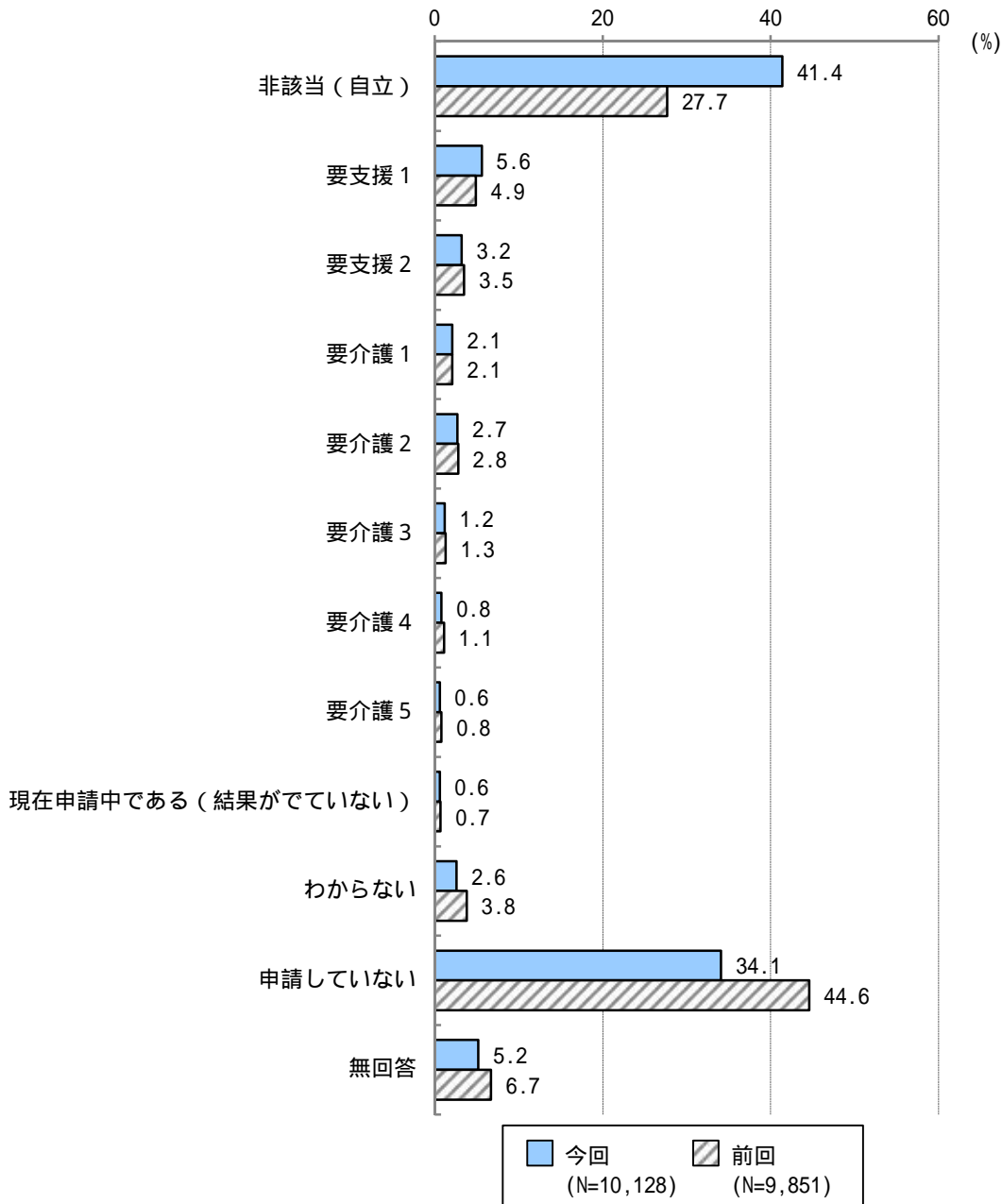


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問4 介護保険の申請・認定の状況

あなたの介護保険の申請、認定状況は、次のどれにあてはまりますか。(はひとつ)

【図4 介護保険の申請・認定の状況】

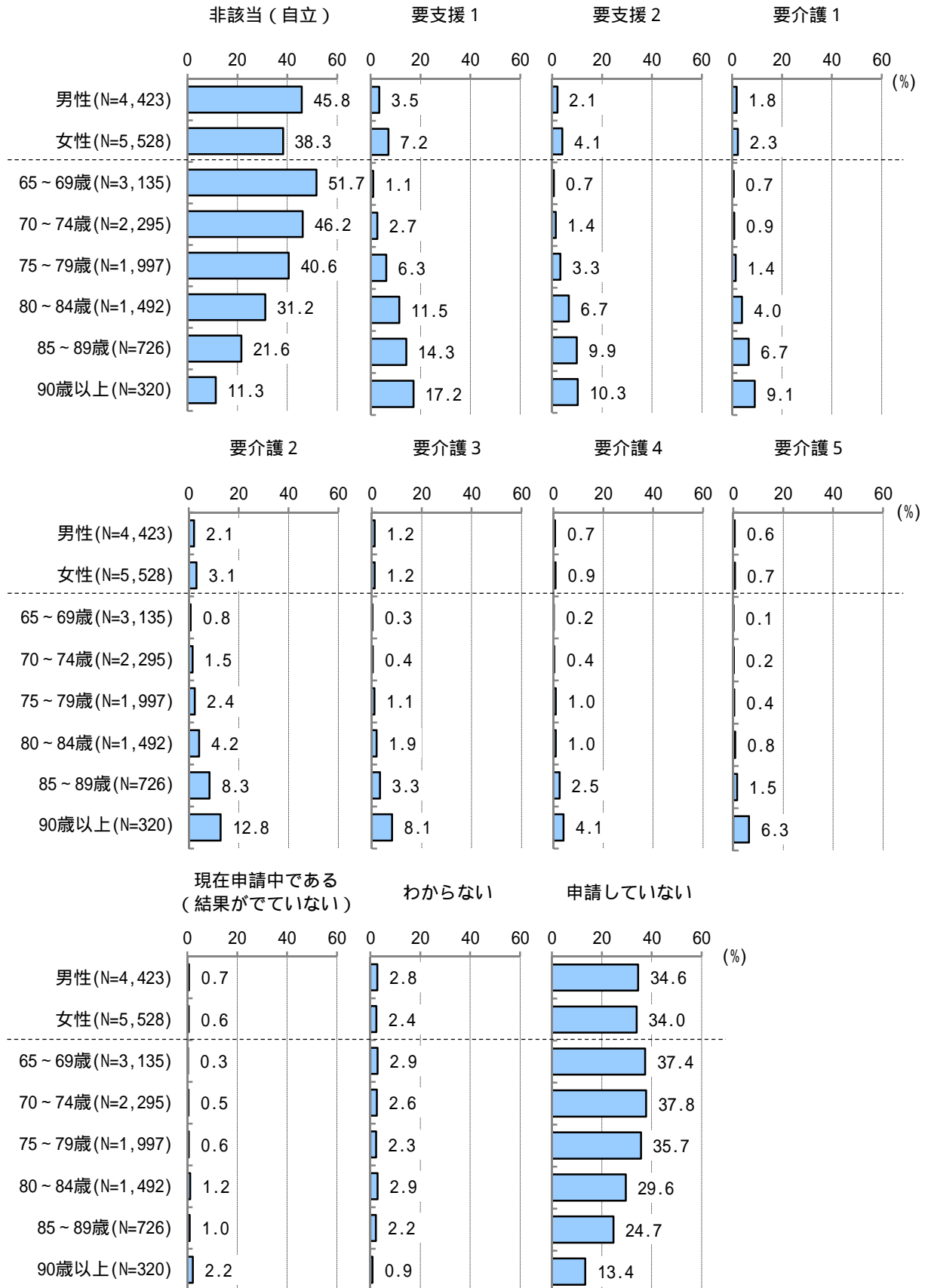


調査回答者の介護保険の申請、認定状況については、「非該当(自立)」が最も多く、次いで「申請していない」となっており、あわせると7割を超える割合となっている。また、認定のある方の中では、「要支援1」「要支援2」「要介護2」の順に多く、比較的軽度な方が多くなっている。

前回調査と比較すると、「非該当(自立)」は13.7ポイント高くなり、「申請していない」は10.5ポイント低くなっている。(図4)

性別で見ると、男性では、「非該当(自立)」「申請していない」の回答割合が女性より高く、「要介護(要支援)認定を受けている方」の回答割合は概ね女性の方が高い。
 年齢別では、いずれの介護度も高齢になるほど割合が高くなる傾向にある。(図4-a)

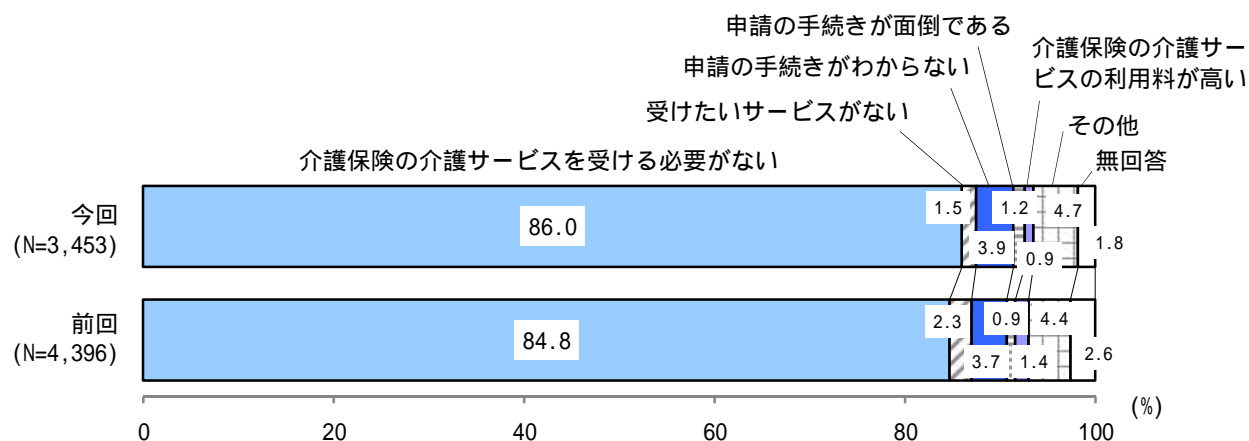
【図4-a 介護保険の申請・認定の状況(性別・年齢別)】



問4-1 申請をしていない理由

【問4で「11 申請していない」と回答された方におうかがいします。】
 あなたが介護保険の認定申請をしていない理由は何ですか。(はひとつ)

【図4-1 申請をしていない理由】



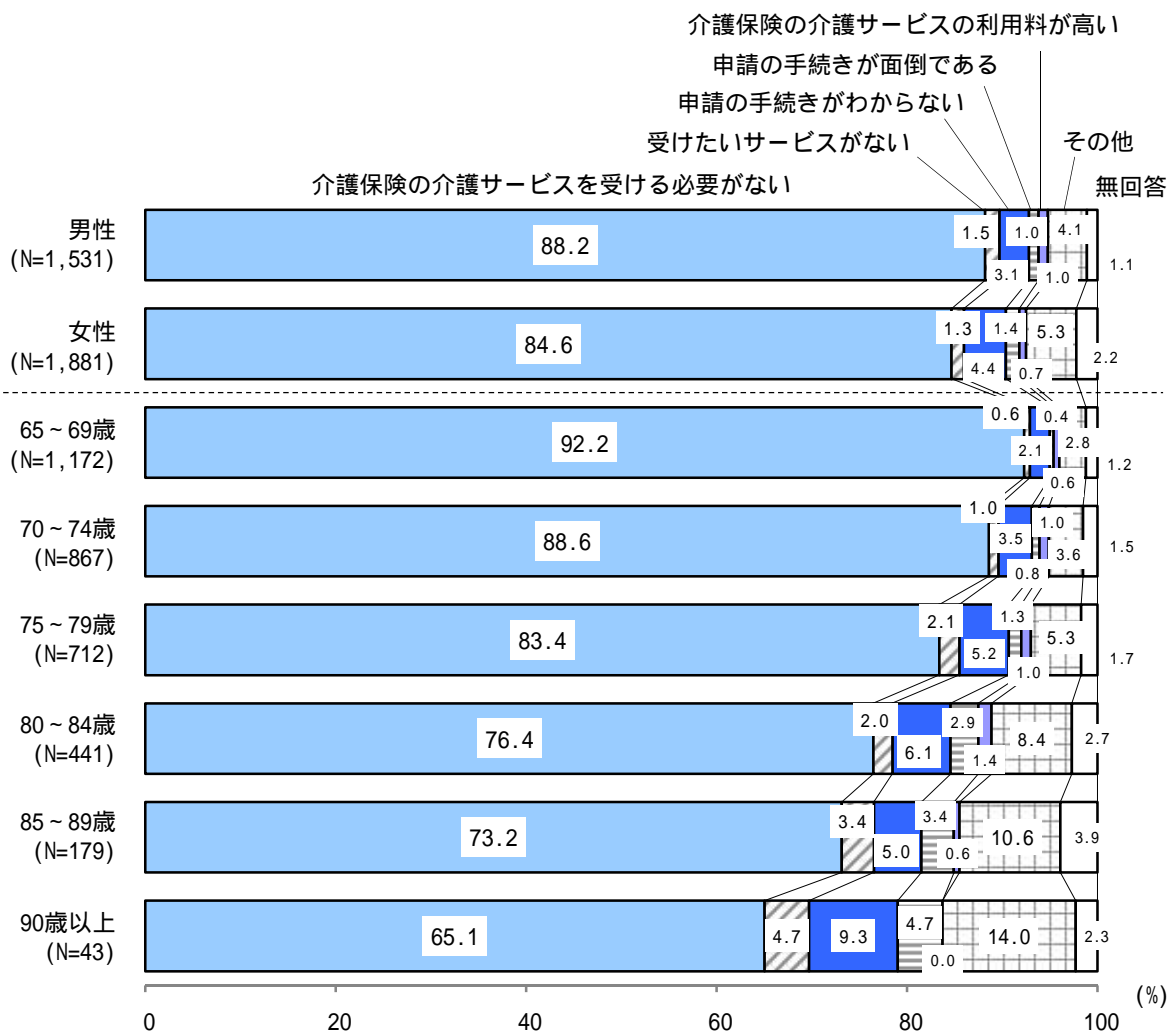
申請していないと回答した人に、その理由をたずねると、「介護保険の介護サービスを受ける必要がない」が86.0%と大部分を占めている。

前回調査と比較しても、「介護保険の介護サービスを受ける必要がない」の割合が高く、次いで「申請の手続きがわからない」の順で、概ね前回と同様の構成割合となっている。(図4-1)

性別で見ると、「介護保険の介護サービスを受ける必要がない」の回答割合は男性の方が高くなっている。

年齢別では、概ね高齢になるほど「介護保険の介護保険サービスを受ける必要がない」の回答割合が少なくなっている。また、90歳以上では、「受けないサービスがない」、「申請の手続きがわからない」、「申請の手続きが面倒である」の回答割合が他よりも高い。(図4-1-a)

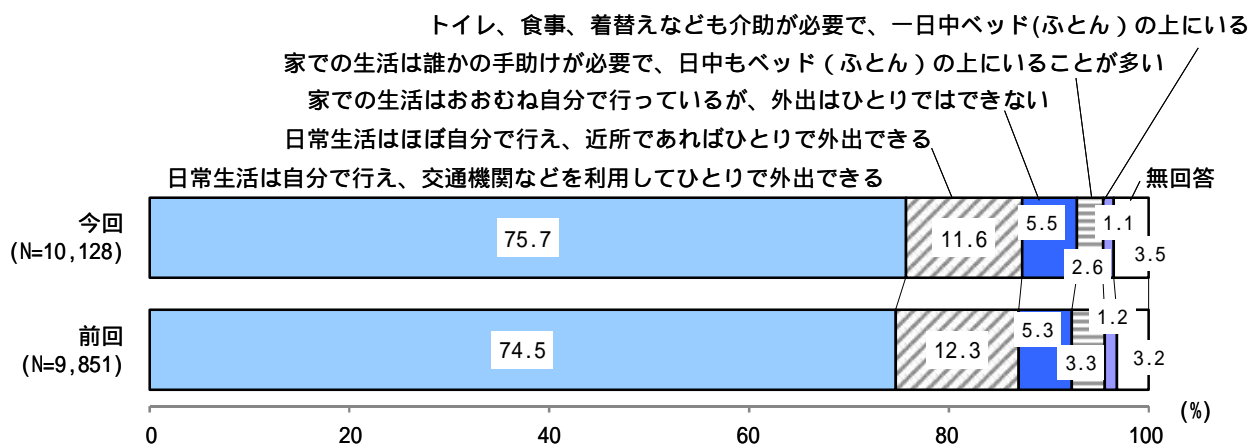
【図4-1-a 申請をしていない理由（性別・年齢別）】



問5 日常生活動作・日常的な活動の状況

あなたの日常生活の状況は、次のどれにあてはまりますか。(はひとつ)

【図5 日常生活動作・日常的な活動の状況】



日常生活動作は、「日常生活は自分で行え、交通機関などを利用してひとりで外出できる」が75.7%と大部分を占め、「日常生活はほぼ自分で行え、近所であればひとりで外出できる」(11.6%)が続き、87.3%の方が『日常生活はほぼ自分で行え、ひとりで外出ができる』状況となっている。

前回調査と比較しても、同様に8割以上の方が、『日常生活はほぼ自分で行え、ひとりで外出ができる』となっており、概ね同様の傾向となっている。(図5)

性別で見ると、『日常生活はほぼ自分で行え、ひとりで外出できる』割合は、女性よりも男性の方が高い。

年齢別にみると、高齢になるほど、介護や援助が必要な状態が高くなっている。(図5-a)

【図5-a 日常生活動作・日常的な活動の状況(性別・年齢別)】

